

認知症と誤嚥性肺炎・窒息

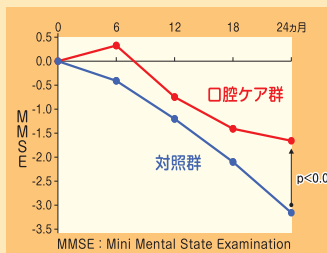
認知症の進行により日常の口腔管理が十分できなくなるとお口の中が著しく汚れ、誤嚥性肺炎の原因菌が増えます。菌を含んだ汚れを誤嚥することによって誤嚥性肺炎が起きてしまいます。

アルツハイマー病後期、脳血管性認知症においては初期から摂食・嚥下機能に障害が出る可能性があり、状態によっては窒息する危険もあります。

状態に応じた食事の対応、リハビリ、専門的な口腔ケアが必要です。

口腔ケアと認知症の症状の進行予防

認知症高齢者が歯科医師や歯科衛生士による専門的な口腔ケアを受けた場合、認知症の症状の進行抑制に効果が見られることが報告されています。



口腔ケアによる認知機能 (MMSE) の低下予防

- 認知症の症状の進行を止めることはできないが、進行速度を抑えることができた
- 食事がスムーズにとれるようになった
- 誤嚥性肺炎による入院を少なくすることができた
- 施設内の臭いや利用者の口臭が少なくなった
- 入居者の表情が明るくなった

【8020運動推進事業：口腔ケアによる認知症進行予防事業】

早期治療とお口の管理をお忘れなく！

認知症の症状が軽度なときには、歯科治療や口腔管理などが問題なくできていても症状が進行すると徐々に困難になることもあります。

- 本人の訴えが不明確になる
- 口を開けない・拒否する
- 集中できない・暴れる
- 治療への理解、意思疎通の低下
- 入れ歯の装着をいやがる

早期にかかりつけの歯科医療機関で、定期的にお口の健康チェックを受けましょう。

認知症が重症化してお口の状態が悪化した場合には、病院歯科などでの処置が必要となることもあります。

お困りの かたは…

まず、お口の健康管理をしてもらう「かかりつけ歯科医」に相談しましょう。認知症高齢者の歯科治療には、専門的な知識や技術が必要となることもあります。

お問合先

岐阜県歯科医師会在宅歯科医療連携室

TEL 058-274-6116 FAX 058-276-1722

地域歯科医師会在宅歯科医療連携室・
訪問歯科診療相談窓口

●詳しくは、ホームページをご覧ください。
http://www.gifukenshi.or.jp/?page_id=101



いつまでもおいしく 食べるために 大切な**お口**のケア

～認知症とお口の管理～



(公社)岐阜県歯科医師会

発行／岐阜県・岐阜県歯科医師会

認知症とは

認知症の出現率は年齢とともに高まり、85歳以上の4人に1人は認知症の症状があると言われています。

いろいろな原因で脳の細胞が死んでしまったり、働きが悪くなったために様々な症状が出ている状態(およそ6ヶ月間継続)を指します。

代表的な認知症には大脳皮質が障害を受けるアルツハイマー病、レビー小体型認知症と大脳白質が障害される脳血管性認知症があります。

認知症患者の問題点と対応



1 偏食傾向

栄養バランスのとれた食事を摂る

2 意識レベルの低下

覚醒を確認してから食事を始める

3 認知障害や失行

もつ茶碗を変えたり皿の位置を変える

4 拒食(食べない)

温かく見守りながら食べてもらう

5 過食(絶えず食べたがる)

すぐに食後の後片付けをせず、今食べたばかりだということを見せて説明する

6 異食(食べ物以外を口に入れる)

目につくところ、手が届く場所に置かない

認知症 高齢者に多い お口の様子

認知症高齢者は、お口の中にむし歯や入れ歯の破損などのトラブルがあっても、気づかないときや症状を訴えられないことが多くあります。表情の変化や話し方、食べ方を継続的に観察するとともに、定期的にお口のケアを行い、状態の把握に努めましょう。

